

日本ニュージーランド協会関西
New Zealand Society of Japan, Kansai
Since 1970

第 240 回例会のご案内
「日本在住の二人のニュージーランド人によるプレゼンテーション」

日時：2013年9月28日（土）午前10:10時～正午 受付開始：午前10時00分
会場：大阪市立総合生涯学習センター（大阪駅前第2ビル5階 第5研修室）
費用：無料

Alexander Benett さんのプレゼンテーション

テーマ：「日本人の知らない武士道」

関西大学准教授。1970年、ニュージーランド生。87年に交換留学生として初来日、高校の部活動で剣道を始めたのがきっかけで武道に惹かれる。カンタベリー大学卒業、同大学院修士課程修了、京都大学大学院人間・環境学研究科博士課程修了、国際日本文センター助手、帝京大学日本文化学科講師を経て09年より現職。剣道錬士7段、居合道5段、なぎなた5段、2011年世界なぎなた選手権で準優勝。剣道のニュージーランド代表監督として第15回世界剣道選手権大会（12年）ではチームを歴代最高のベスト8に導いた。

国際なぎなた連盟副会長、全日本剣道連盟参与、日本武道学会理事。

本年7月文春新書で「日本人の知らない武士道」を発表。



テープ起こし：永田美夜子

校正：桑原耕治

関西大学 准教授 アレクサンダー・ベネット

おはようございます。ニュージーランド、クライストチャーチ出身のベネットです。どうぞ宜しくお願いします。

今日は武士道というかね、武士道と武道についてお話をさせていただきますけれども。そうですね、もう二ヶ月前になるんですかね、この「日本人の知らない武士道」という本を文春新書から出しまして。えー、売り上げはぼちぼちです(笑)。もうちょっとあの、印税生活出来るようにと思っていたんですけどそれはまだ早いみたいなので、今の勤め先は関西大学です。関西大学の国際部にあります。で、今ちょっと話しさっきありましたけれども、ほぼ10年前になるかと思うんですけれど、国際日本文化研究センターの助手として働いていた時に、一回皆さんと一緒に話しをしたり食事をした覚えがあります。もうほぼ10年経つということは、ちょっともうね、そういうだけでも大分年を感じるようになったんですけれども。それでは今日はとりあえずこの武士道という事を、特にこの、まあニュージーランド人の目から見た武士道というものは何なのか、ということについて話をしたいと思います。

勝敗における態度はいかにあるべきか

これはまあ、はっきり言ってどうでもいいことなんですけれども、私が日本に住んで何年経つでしょうか。22年になります。人生の半分以上になってます。

だから私はよく言われることは、日本人より日本人らしいとかいう事をよく言われるのですが、そうじゃないと思ってます。日本人より日本人らしいということではなく、まあ人生半分以上日本ということだから、ニュージーランド系日本人と言っているのかな、と思ってます。日系アメリカ人とかいるじゃないですか、それと同じような感覚で。

「不思議」な国- 日本 My Top 10

居眠り名人

よく並ぶ

国際だと言っているくせして、閉鎖的じゃ！

どうでもいいことに几帳面。だが...

日本はユニークだと強調する

まだ生きているものを食う

スポーツ選手はよく泣く

スポーツ解説者は感情的

学校の部活は軍人訓練

武士道はジャパニーズスピリット？

それでもですね、いくら長く日本に住んでてもちょっとな、ちょっと訳がわからない事がよくあります。これがまあ適当に書いたトップ10になるんですけれども、一つ一つ説明してももう時間がすぐ無くなっちゃいますから取敢えずですね、この辺ですね今日話しをするのは。

まず、そうですねニュージーランドはもちろんスポーツ王国で、みんな何かスポーツやってますよね。皆さんニュース見てましたか？このあいだのアメリカズカップの話がニュージーランドではすごい盛り上がりましてけども、知りませんか？

アメリカズカップっていうのがヨットなんです。ヨットです。ヨットの世界ではもうワールドカップみたいなもんですかね要は。で、そのアメリカズカップと言ってももうほとんどずっとアメリカにある訳です。今年ニュージーランドまたチャレンジをして、最初に9回勝つチームが優勝することになっちゃうんですよ。アメリカはもーのすごいお金もあるし、プライドもある訳ですから絶対負けたくない訳ですね。何億、何億どころじゃないですね何百億、お金をかけてディフェンドしようとしてたんですけど、それでもニュージーランドが8回勝って1回負けて8-1やったんです。あと一回勝てばそれで歴史的な勝利になる訳ですけども、あの、何でか逆転されて9-8で負けてしまったんですよ。昨日、おとといですかね。ニュージーランド人にとってはもう大きなショックですよ。8-1で勝ってる訳だからあと一回勝てばいい訳ですからね、それも逆転されて。

一番腹の立つことはアメリカチームのスキッパーですね、オーストラリア人、品の無いオーストラリア人。(笑) それでそのなんと言うんでしょう、そのリーダーですね、executive director っていうのがラッセル・クーツというニュージーランド人なんです。敵！(笑)になっちゃってるんですよ。まあでもね、ニュージーランドのスキッパー、ディーン・バーカーというんですけども非常に素晴らしい方で、一回日本で会ったことがあるんです。本っ当に紳士で、もうあんな8-1まで勝ってそれで逆転、まさかの逆転ということはもう、あの人もニュージーランドチームはみんな命がけでずっとやってる訳ですから。あ〜もうほんつとにねえ、ショックだったんですけども彼がものすごい。負けても相手チームをちゃんと褒めて「やあ、もう素晴らしい」。オラクルチームと言うんですけど「オラクルチームは素晴らしいもんなあ」と。「ああ」っていうこと、もう顔が泣きそうですけれども泣かないです、ストイックなんですよ。それが、そ

れがね、勝利はならなかったんですけどもやっぱりそういう人柄というか、ニュージーランドのヒーローになっているんですね。勝っても驕らない、相手チームを馬鹿にしない、負けてもちゃんとその苦しい気持ちを耐えて、それで相手チームを褒めて、それで去って行くっていう。まあ本当にもうその勝負が終わってからの態度ですね、本当に素晴らしいもんだと。私はそれを見て感動しました。本当は勝ちたかったけど。特にあの品の無いオーストラリア人に負けたくないっていうのがあるんですけど(笑)、まあ仕方がないですね。

でもこれがそういうところで、やっぱり日本に来て不思議に思うのは、例えばこのあいだもありましたけれども甲子園で野球ありますよね。せっかく素晴らしい試合やって、勝ち負けもある訳ですから。負けたらもう皆泣いて、甲子園の砂を袋に入れて、自分のグラウンドに持って帰ろうという、まあそういう必ず毎回毎回のドラマがテレビに映る訳ですけど、何で泣くの？って思うんですよね。泣かんでええやないかっていう。あんだけ頑張ったらもうね、悔しいのは判るんだけどそれこそそういう気持ちを何ていうかな、まあ我慢ていうか抑えるていうか、それが男じゃないかという、私はずっとそういう教育を受けてきている訳ですよ。勝つのは嬉しい、負けるのは悔しいけれども、やっぱりその表情に出さないのがまあ男。男でも女でも良いんですけど、それがやっぱり私の、今までずっとスポーツやってきたんですけど、ひとつの美德として考える訳なんですよ。

そう言っても逆に日本人がそういう所を見たい訳ですよ。頑張って負けたって、悔しい、泣くっていうのはまあ何ていうかな、ひとつのドラマですよ。でも私はどうしてもやっぱりニュージーランド人としてはそれを見て何でやるな？と思うんですよ。泣かないのが普通じゃないの？と、そういう風に考えてます。まあひとつの不思議、トップ10に入るかどうか分かんないけど、一応日本のスポーツ選手はよく泣く。勝っても泣くし負けても泣くっていう事、どうかなあと思ったりするのは、ディーン・バーカーも本当に泣きそうな顔をしてるんだけど我慢したんですよ、そこですよ。

解説者じゃなくて応援団？

それと関連する事なんですよけれども、これですね、テレビでそういうスポーツの試合とかやったりしますよね。で特に日本の代表チームが出ると、いきなり解説する人が解説じゃなくて応援団になっちゃうん

ですよ。で、解説で普通冷静にそのプレーをひとつひとつ説明する役割なんですよけれども、逆にもうそうじゃなくてすごく感情的になってまあエキサイトする訳ですよ、解説者が。それもどうかなあと思うんですよ。だからそういう事がある時は、例えば日本のサッカーチームとか野球チームとかバレーとかね、その解説してる人達があんまりにも日本最良とかね、なってしまうと私はどうしてもニュージーランド系日本人といっても、相手チーム応援したくなっちゃうんですよ。そういうのがちょっとやっぱりダメだなと私は思うんですよ、ニュージーランド系日本人の感覚からすると。

日本のクラブ活動は

後はですねこれはまあ私が実際に体験したことで、これがあって今まだ日本に居るという事になっちゃうんですけど、学校部活は軍人訓練みたいなもんだと。最近それがちょっと問題になっている訳ですけど、学校の部活内の体罰問題とか。私が日本の高校行った時はそれが当たり前だったんです。剣道部に入って、まあ先生が典型的な体育の先生で、ホンマ先生なのかヤクザなのかよくわからないような恐ろしい人だったんですけど、もう毎日の剣道がまあ地獄でした。本当にいつも楽しくない部活。けれども辞めさせてくれない。という事で私がずっとニュージーランドでスポーツやってきて。ニュージーランド皆さんご存知の通り、日本と同じように四季があって、四季があるのは日本だけじゃないですよ、四季があって、やっぱその季節によってやるスポーツとかね違うんですよ。例えば冬スポーツって言えばラグビー、サッカー。夏スポーツと言えばクリケットとかソフトボールとかテニスとかね、まあ分けてる訳ですよ。だから高校部活っていうのは、多くの人は一つだけじゃなくて二つもしくは三つ入っちゃうんですよ。で一年中やってるんじゃないんですよ、その季節だけ。一つだけしかも毎日毎日練習とかするんじゃないで週に二回もしくはまあ三回、で土曜日授業が無いから他の学校とそういう試合をするという、まあそういうパターンですよ。

日本に来ると季節が四季があってもスポーツの季節は無いですよ。もう一年中同じ部活をやる。でそれは多分高校だったら一年生から三年生までずーっと一つだけ、しかもそれが毎日です。週に二、三回どころか本当に毎日。土日もやります。日曜日くらいは休みだろうと思ったらとんでもない、朝9時から6時まで剣道です。私の高校生活はそういうものだったんです、日本ではね。だから苦しいも

のだったんですね。本当にもうスポーツっていうのは楽しいもんだと私はずっと思ってやった訳ですけど、日本に来たら楽しいもんじゃない、毎日マラソン走っているようなもんです。だからそういう意味で訓練ですね。だから目的はまたちょっと違うかも知れない。それはそれでいいです。私がそれで取り敢えず一年間、まあ辞めさしてくれんかったっていうのもあるんですけど一応頑張ってたんですね。でまあ途中からですね、剣道というものをどういう素晴らしいもんかという事に気付いて、それではまっちゃった訳ですよ、で今に至るといいますか。まあそれで剣道が無ければ多分日本にはもう居ないと思うんですね正直言って。それが趣味どころじゃないですね、私の人生の哲学を与えてくれる道なんです。また私の、今関西大学の教員やってる訳ですけども研究もその授業も全部武道関係ですね。だから本当にまあ(千葉市立)稲毛高校の剣道部に入った時まさかこういう事になるとは全然思ってなかったんですけど、まあそういう事です。

武士道 = Japanese Spirit?

で、この最後の一番下の所書いている「不思議なこと」と言えば、やっぱりずっと剣道やってるって事で「じゃあアレックは Japanese Spirit が判るんだ」と言う訳ですよ。でなんで？って。「剣道とか武士道とか Japanese Spirit だ」と言う訳ですよ。何で Japanese Spirit ですか？とか訊くと、「やあ、それは侍の文化だ。今の日本人が受け継いでるんだ。」とかいような訳わからん事を言うんですね。ちょっと皮肉的な言い方かも知れないんですけど、本当にそうなのか？っていう事をずっと疑問に思って私は今まで大学で研究してきた事はこれがポイントなんですよ。本当にじゃあ武士道って何なのかと。本当にこれが Japanese Spirit と言えるのか、Japanese Spirit って何なのかと、日本製というのが何なのか、というような事をまさにこの「日本人の知らない武士道」ってその(本の)裏にあるテーマはそれなんですよ。

だからそう言うんですけど、じゃあ本当に武士道って何ですか？って訊くと、即答出来る人ってそんなに居ないんですね。誤解が非常に多いんです。という事で、武道でもやった事ない人でもこういう事言うぐらいですから、ちょっとあの非常に不思議だなとずっと思ってます。武士道っていうのがまあひとつの流行り言葉ですね、もう随分前からそうですけども。

戦前日本でも武士道、また戦後になってからしばらくちょっと武士道とかいう言葉に対するアレルギーがあったと思うんですね。やっぱり超国家主義、軍国主義的なニュアンスがあるっていう事で。しかしまあ日本が戦争に負けて、それでまた復活しましたよね。経済的にも社会的にもまあ何と言うんですか、先進国のひとつのリーダーになっているという事なので、それはやっぱり武士道だという事を言う人はたくさん居る訳ですね。

また同時に日本ではいろんな社会問題がある。非行問題とかね、モラルの低下とか、それはどう直すかっていう事でやっぱり武士道を復活させなアカンというような、そういう事言ったりする、まあそういう本がたくさんあります。

例えば皆さんご存知だと思うんですけども、数年前に「国家の品格」っていう本が出ましたよね。藤原さんという人が書いた本なんですけれども、確かに数学の先生ですよ、武士の事なんかいっつもわかっていないんですよ。あの人は別に(武道を)やってる訳でもないし。けれどもそういう「国家の品格」の中で新渡戸稲造の「武士道」を取り上げて、こういうのを日本にもう少しやっぱり考え直すべきじゃないかと、そういう事を言う訳です。それで羨ましい事にとんでもないベストセラーになったんですよ。私の本の方が良いと思うんですよ(笑)。でもベストセラーにならない(笑)。という事なんでどっか私間違ってるのかなと思ったりするんですけど、まあとにかくねそれはいいんですよ別に。

そういう武士道っていう倫理、そういう思想っていうかね、確かにありました。ただ武士、例えば江戸時代の武士の数というかね、総人口の5~6%ぐらいしか居ない訳ですよ。それが社会的エリートだけのものだったんですよ。しかし武士道とか武士っていう、まあ平和な時代だったんですね。平和なのになんで武士が必要なのかという自分たちの存在理由を問い直す長い時代だったんで、250年の平和ですよ。それで何のために武士がいるのかっていう事、武士自身にとっては大きなジレンマだったんですね。戦う場も無い、自分の武勇を見せる、名誉を得る場所が無いっていう事で、何の為に俺たちが居るんだ？という事は。

まあそれでいろんな武士道書が出てくるんですよ。武士道書っていうのは例えば山鹿素行が書いたものとか、大道寺友山が書いた「武道初心集」とか、その中に戦争は確かにないけれどもいつあつ

でもすぐ対応出来るような心構え、その為にはやっぱり武術をやらないといけない。いわゆるピースキーパーですね、戦争ないかもしれないけども、もし何かあったらすぐそれに対応出来るような準備しないといけない。何も無い時には取り敢えずその社会のリーダーとして見本を示さないといけない、とそういう事書いてる訳ですね。だから人間の理想像にならなければならないと、それが武士道だったんですね。

それは理想だから、理想と現実大体違うんですよね。だから多くの武士はとんでもない悪い奴だったと思うんです。どうでもいい話しですけど例えばテレビの時代劇とか見ると、大体一人ぐらい素晴らしい武士が居てあとは20人30人は悪い奴ばかりですよ。恐らくそこまでひどいもんじゃなかったと思うんだけど、やっぱり武士っていう事はイコール文句無しに良い人だった、とかいう事とは限らない。けれども武士道っていう理想像っていうものがあって、それを目指してた訳ですよ。それが特に近代日本、明治以降ですね、武士のものではなく日本国民のものになったと。

日本人で生まれたからといってその武士のDNAを受け継いでる、武士道を受け継いでるって事になっちゃってるんですけども、よく考えてみると有り得ない事なんですよ。しかしひとつの理想としていいんじゃないかなと私は思います。

武士道とは

ただ多くの武士道書の問題、最近「国家の品格」とか似たような本も沢山ありますけれども、もうほとんどの本はね大きな欠点としてそういう事、まあ武士道をもうちょっと考え直そうじゃないか、という事を言うんですけども、しかしどうやって復活すればいいのかっていう、何をしたらいいのかっていうか全く書いてない訳ですよ。ただ偉そうな事言うだけなんです。で結論から言うとじゃあそういう事本当にするんだったら、本当に武士道っていうものを勉強して、それをまあ何と言ったら良いんでしょうか、体得って言うんですかね、するんだったら、自分のものにするんだったら、本を読んだりしてそれを勉強する者は話しにならないんです。実際に身体を使ってですね、例えばその武道の何かをやった方が、それこそ今の剣道でも柔道でもですね、この武士文化の名残があるんですよ。そういうものアクセスしようと思ったら本当にもうやるしかないという風に私が思ってる訳ですよ。

だから面白い事にこの武士道という言葉ですね、江戸時代には武士道っていう言葉はあったんですけども、ほとんど使われてないんですよ。武士道というよりも武の道、武道。今で言う武道は剣道になっちゃうんだけど、そうじゃなくてその当時江戸時代だったら武士の思想だったんです、武道っていうものは。もしくは士道っていう言葉が一般的だったんです。武士道っていう言葉が一般的になったのは明治以降なんです。要は武士がいない時に。武士がもういなくなってる訳ですよ。その時から武士道っていう言葉が流行りだした訳ですよ。

もちろん江戸時代に武士道っていう言葉は存在してたんです。例えば「葉隠」っていう本がありまして、「武士道とは死ぬことと見つけたり」っていう佐賀藩の武士が書いた本なんですけれども、そういう言葉あったんだけど決して一般的ではなかったと。江戸時代終わって明治、近代国家になってからですね、やっぱりその日本のアイデンティティ、日本人、日本国民、それまでは士農工商だったんですけどもじゃあ明治からはもうそれがなくなって、じゃあ日本人というのは何かという事を問う時代になったんですね。で日本のアイデンティティは何だろう？、何処にあるんだろう？と。同じ時代にですねニューージーランドでもそうです、自分たちの所謂国家アイデンティティを探してた訳ですよ。で日本がその答えは武士文化に見付けたと、ひとつはですね。だからやはり武道とか武士道というのがまあその時からですね日本人のものだと、日本国民性に繋がるものだという教育、又そういう新しい常識が出来た。言い方いろいろあるんですけども「伝統の発明」と言ってもいいかも知れないですね。新しい伝統発明されたという風に言ってもいいでしょう。でそれが今に至る、だから **Japanese Spirit** っていうのはそこからきてるんです。だから100年くらいですね。

BUSHIDO の背景

大きく貢献した人はこの人ですね、皆さんご存知だと思うんですけど新渡戸稲造です。もともと東北盛岡出身の人だったんですけども、武家まあ先祖が武家だったんですね。ただこの人は決して日本史、日本思想史、武士道などの専門家ではなかったです。どっちかっていうと逆に西洋史、西洋哲学、西洋宗教の専門家、農業の専門家だったんですね。この人の教育はほとんど英語で受けました。札幌農学校って今の北海道大学農学部だったんですよ、で教育受けてあとアメリカ、カナダ、ドイツ、

ベルギーなど留学をして非常に英語が堪能だったと。その人は丁度明治中期ぐらいですね、海外によく出るようになって丁度その時はジャポニズムっていう、要するに日本に対するまあおたくっぽい感じですね、日本っていうまあ日本文化、日本の事を知りたいっていう人がヨーロッパ、アメリカには沢山いましたけれどもほとんど情報が無い訳です。でこの新渡戸稲造っていう人が英語とかドイツ語とか流暢にしゃべる事が出来るから、やっぱり日本の事を知りたいっていう事になればこの人に訊きます。この人はいろんな外国人から日本の事訊かれて、まあ日本の顔みたいな事になっちゃうんですね。一応教育者だったんですけれども、非常に、今の国連でありますよね、昔は United Nations (国際連合)ではなくて League of Nations (国際連盟)って言って、その事務総長までいったんです。だからものすごい偉い人だったんですよね。日本よりも外国の方では有名な人だったんですこの人。日本だったら、もうなくなりましたけど5千円札の顔だったんですけれど。あれ1枚ととけば良かったって今思ってるんですけど、全部使っちゃったんで(笑)。

まあとにかくこの人がある日ベルギーの方だったんですかね、確かベルギーだったと思うんですけど、とにかくベルギーの大学の教授と散歩しながらちょっといろいろ話しをした。それで道德教育の話になったんです。日本の学校ではそういう宗教教育がないっていう話しをしたんですよね。だから外国では、ニュージーランドでも最近まであったんですけど、Bible Class とかね。要するに学校で例えば聖書を勉強するとか、それで道德を学ぶとかいうような所謂 religious classes とかありましたけど、今はそれは実はなくなってるんですけれども、その当時それがヨーロッパとかアメリカでは一般的だったんです。日本ではもちろんそれが無い訳です。それでその教授に、ベルギーの教授にね、じゃあどうやって日本の子供達に道德を教えるんだ？とかいう事を訊かれた。で新渡戸が即答出来なかった。いやあそうや、言われてみればどうしてるんだらうなあ。でも日本っていうのはそんな野蛮な国ではないんだけど、その道德の源は何だらうっていう事を考えて、それでああひょっとしてあれ、武士道か、っていう事なんです。それで日本にはキリスト教徒ほとんど居ないんですけれども、本人がクリスチャンだったんです。内村鑑三と同じようなクリスチャン。キリスト教の中でもいろいろあるんですけどもクエーカーだったんです。クエーカーって平和主義なんですよ。奥さんがフィラデルフィアの

メアリー・エルキントンっていう人なんですけれども、フィラデルフィアっていうのはクエーカーのひとつのメッカ、と言ったらそれはイスラム教ですね...みたいなもんですけれども、あのおうそれでまあ日本にはキリスト教はまあ無いんだけど武士道というものがあるから、よくそれを分析すればそれはキリスト教とよく似てるもんだっていう事を思って本を書いたんです。1899年に BUSHIDO という本を書きました。それは英語で書いたんです。立派な本です、立派な本で今でもベストセラーです。また羨ましい次第です(笑)。

けれどもそれが面白いことに、例えば山鹿素行とか北条氏長とか大道寺友山とかいうような、要するに江戸時代の武士道書を書いた有名な人達の本とか一切引用してないんです。全く引用してない。っていうのは判ってないと思うんです。知らないと思うんです。そういう教育受けてないし、全部英語で教育受けて、日本史の事もそんなに詳しくない。でその武士道の本を読むと、キリスト教ですよ、武士道じゃないんです、キリスト教なんです。例えば新渡戸の、この七つの徳っていうのがありますけれども、この中の礼。まあ日本では礼っていう礼法とか礼儀作法とかの礼。これは非常に重要な概念ですよ、武道じゃなくても日常生活において。この礼はその武士道の中の一つの徳だと新渡戸が言ってるんですけど、その文章を読みますと、あれ？どっかで見たことあるな。それが実は聖書のコリント人への手紙の第13章の愛に関する文章と全く同じです。だから盗作ですよ(笑)聖書から。って言ってもそれはちょっと言い過ぎですけど、まあパクリですね。

でそれは要するに彼がその「BUSHIDO」を書いた意図っていうのは何かと。それは外国の人に、キリスト教というのが日本ではそんなに普及してないんだけど武士道というものがあって、それを見ればほとんどキリスト教と似ているじゃないかという事なんですよ。だからこれがあるからこれからの伝道活動とかいう事はうまい事いこうという。もう一つ日本はキリスト教がなくても日本は決して野蛮な国ではない、ちゃんと道德がキリスト教の国と同じような素晴らしいものがあるというアピールです。

BUSHIDO の波及

不思議なことにあんまりにもこの BUSHIDO がベストセラーになって、特に1904年、1905年に日露戦争がありまして、日本がロシアという大国と戦ってですね、日本の勝利だって大体皆言うんですけど、そう

じゃなくて引き分けだったと私は思うんですけれど、とにかくあんな大国と戦ってそれで、まあ勝ったっていう事にしましょう、それはもう世界の人達が驚いた訳ですね。その当時の新聞見ると本当にもう日本という国はどういうものだろうという。たった50年前だったらね、まだ封建制度でなんにも、まあ刀とか槍を振り回して戦ってるのに、たったの50年でこんだけ軍事大国になるっていう事はやっぱり驚いた訳です。

それでアメリカの大統領ルーズベルトがびっくりして、日本のそのエネルギーとかあれどこから来てるんだろうと。ほとんどね日本に関する本とか無い訳ですから。それでこの新渡戸が書いた BUSHIDO を読んでああそうか、ここ、これか、っていう事になってですね。これは凄い、この日本の武士道って凄いもんだと。それで本を何十冊も買って自分の仲間に配ったんです。これもほとんど知られてない話なんですけれども、嘉納治五郎っていう柔道をつくった人で創立者が、彼も結構新渡戸と似てる所があって非常に国際的に活躍してた人ですね。あの人も教育者で、あの人も同じように英語で教育も受けて。ルーズベルトが嘉納治五郎に直接お願いして、この日本の武道とか武士道とかすっげ面白いんだと、俺も勉強したいんだと、ちょっと柔道教えてくれって言うんですよね。で、ホワイトハウスの中に小さい道場を造ったんです実は。嘉納治五郎が直接指導をしたんじゃないんだけど、自分の No.1弟子山下義韶っていう人をアメリカに送って、派遣してルーズベルトとまたハーバード大学とか海兵学校とかでも柔道やってたんですね。だからそれぐらいその当時からですね、日本だけじゃなくて世界の人達が日本の武士道に注目するようになったんですね。あまりにも、新渡戸が書いた本英語だったんですけれども、あまりにも話題になってるという事で、彼の、東大の教授にもなったんで、その弟子が日本語に直したんです英語から。それを比べると非常に日本語の文章が堅い。もともとの英語とやっぱ雰囲気がちよっと違う。まあ弟子だからすごい真面目にやったという事だと思うんですけれども。それがまた日本でもベストセラーになったんです。それが新しい国民アイデンティティーと言うか、武士道というひとつのキーワードになった訳ですから、それを理解する為には新渡戸が書いた本が非常に参考になった訳です。だからその時からですね、一般の日本人が考える武士道というものが、新渡戸が書いたものに基づいてる訳ですね。でもさっきも言いましたように、えっちょっと待ってそれキリスト教じゃないかっていう

事考えると、非常に不思議ですよ。という事は、それは武士道とは違うっていう事、それはみな間違ってるんだとは決して言わない。近代国家に相応しい新しい武士道の解釈っていう風に考えたらいいんじゃないかなと思ってます。

で面白いことに彼がやっぱりそのキリスト教をベース...と言っても良いかな、いやそれはちよっと言いすぎだな、キリスト教の書物いろいろ参考にしながら自分の武士道の解釈を作った訳ですんで、やはり一応武士道って日本の固有文化だと言ってるんですけれども、彼の書いた武士道って非常に固有性というよりも普遍性、普遍的な解釈なんです。だから内容が非常に普遍的。どんな、どこの国の人間でも感銘できるような内容なんです。それがやっぱりベストセラーの鍵になってると思うんですよね。それが無かったら多分誰も知らない本になるんです。だから普遍的な内容なのでずっと残ってる。日本だけじゃなくて世界中に。やっぱり日本の事勉強するんだったら、ひとつ必ず読まなくちゃいけない本はやっぱり新渡戸の BUSHIDO という風に言う人多いと思うんです。

どうして剣道部に入ったか

私が最初にこの BUSHIDO という本を読んだのが、実は日本に1年留学してニュージーランドに帰ってからです。何でかっていうと、私は剣道部に入って、1年の留学だったんで、本当はサッカーやりたかったんですね。でもサッカー、ずっとニュージーランドでサッカー少年で、Shirley Boys High School っていうクライストチャーチの学校で、丁度学校の代表メンバーで全国大会で3位までいったんです。だからね、すごくサッカーしか頭に無いようなティーンエイジャーだったんですけれども、ラグビーじゃなくて。本当はねラグビー、今考えてみればラグビーやれば良かったなって思うんだけど、すごい小柄だったんでお母さんダメだと言うんですよ、ラグビーやったらあかんとかかって。それでずっとサッカーやって。日本来たたらサッカーやろうと思ったら、グラウンド見たら芝生が無いんですよ。もう砂利の上でやってるようなもんなんですよね。これやったらもう怪我するじゃないかと思ってね、どうしよう、やあ本当はサッカーやりたかったけど、Jリーグはないんだけど、まあまあサッカー選手結構いい選手がいるのは知ってたからどうしようって。

それでお母さんがせっかく日本に来ているんだから1年ぐらいは日本の伝統的なスポーツやったらど

うですかって言われて、まあそれはもっともだなと思って。それで柔道は子供の時はちょっとだけやった事あったんだけどあまり興味ない。空手があれば多分やったと思うんですね。やっぱり空手道ってというのは格好いいですよ。

それがなくて、剣道だけです。で見に行っただけです。何がどうなっているか訳判らない。スターウォーズみたいな感じだったんです。先生がダースベーダーでこんなでっかいの付けて、ジェダイ達がかかっていく様な、そういうイメージだったんです。あ、これは格好いいな、何やってるかわからんけど、まあ格好いいな。けれどちょっと怖い、うるさい、で何よりくさいという(笑)そういうイメージだったんです。まあええか、ちょっと1年くらいサムライごっこでもやってみようかっていう、そういう軽い気持ちでやっただけですね、1週間ぐらいで足の裏がマメだらけになって歩くの痛い。剣道やってもそういう素振りとかそればかりやるから、やっぱり基本をまず覚えなといけないんで、まあ退屈です。

柔道とか空手だったら技をかけたならその効果がわかるじゃないですか。剣道なんかそれが無い訳ですから、こんな1年も出来んやろうと思って、先生に「先生ご免なさい辞めます」とか言って「馬鹿ヤロー！」って言われた。本当に「馬鹿ヤロー！」って言われたんです。「辞めたらあかん」という、辞めたら殺すぞっていうようなそういう雰囲気だったんでね、もうオイオイオイと思って。だから無理やりさせられたんです。

そこでサボりながら稽古行ったんですけれど、ああ、本当にもう嫌だったんですね。特に毎日やるという事はやっぱりしんどいです。一番驚いたのがですね、これ全く意外だったんですけれども、初めて日本に来てる訳ですから。まあ来たのが1月だったんですね。冬は寒いもんです。ニュージーランドも寒いんです。春は暖かくて気持ちいい。ニュージーランドも同じです。でも夏が違う。夏になったらですね、全く覚悟してなかったんですね、この暑い、湿気が多いっていう事を。参りましたね。それで面付けて、2時間3時間ぐらいずっと叫びながら走り回るようなその運動って、もう毎日脱水状態ですよ。フラフラですよ本当に。もう熱中症ですね、その時は熱中症誰も知らなかったんですけど。本当にそれで先生が暴力です。半端じゃない暴力です。今だったらすぐ新聞載る。けれどもその当時は普通だったんです。

人生の転機

その夏、とにかく夏が来てもうダメだ俺って、もう日本は嫌だと、ニュージーランドに帰りたい、っていうそういう気持ちだったんですね。学校行くのも嫌だったんです。学校行ったらまた朝からもう授業もわからないし、ずっと座って時計を見るんですよ、でだんだんだんだん稽古の時間近づいてくると気持ちこんななっちゃってやだー、やだー、やだーっていう。もう怖いしね、何されるかわからない。である日一番まあ私がもう精神的に、また肉体的にもスランプっていうかもう限界ですね、気分がもう鬱に近いもんだったと思うんですね今考えてみると。それで稽古行きます、で先生が来ました。来ない日もあるんですよ。来ない日はみんな嬉しいんですよ、陽気な気持ちで出来るんですけど、来る日は「あああ〜」っていう、もうきついからとにかく。先生が防具、面付けてみんな並んでかかって行く訳ですよ。普通まあ2分か3分ぐらいで終わっちゃうんですよ。ちょっと激しいけれどそれで終わっちゃうんですね。

で、なんか、すごい機嫌が悪かったっていう事でしょうね、とにかく先生に対してかかっています、で剣道に「体当たり」という動作があるんですけれども、打ちますよね、それでそのまま身体を使ってドーンとぶつける訳です。体当たりって言ってその相手の体勢を崩して、それでまた打つとかそういう事なんですけども。それで先生に対して、私がもうその当時は50kgぐらいしかなかったんですね。本当に小柄で、先生が私の今の体格だったんですよ、もうがっちり。かかると先生が下がってしまったんですよ、私の体当たりで。やったーと思ったんですね、でもう1回やってやろうってまた体当たりして、また先生が下がっちゃったんです。俺の勝ちだとか思いながら。小っちゃい勝ちですけどね、力比べみたいなもんですからね、どうでもいい事なんですけれども、その時の私にとっては小っちゃな勝利でも大きいもんですよ。で3回もやって先生があんまり下がらなかった。で4回やったら逆に私がコケそうになったんですよ。それでもう力吸われる訳ですよエネルギーが。もうだんだんクタクタになるんですよ。それで先生がまた体当たりしてくるんですよ私に。そんでうわーって下がってしまうんですよ、もう津波が来ているような感じですよ。でずーっと下がって結局ここまで来たんですよ、壁が後ろにあるんでもう1回体当たりされたらこれで潰されてしまうだろうと。先生が面打ってきて体当たり来たところで私は逃げたんです。逃げちゃったんで

す。先生はそのまま壁にぶつけて、それで激怒です。

「馬鹿野郎！」から始まったんですね「逃げるなあー」っていう事で、まあ、あの、殺されました。殺されたっていうのが冗談で言ってるんじゃないです。本当にそうです。かかっていっても倒されるし、蹴られるし、殴られるし、疲れるし。立ち上がろうと思ってもまたすぐ倒されるっていうような、そういう稽古が始まった訳ですね。非常に暴力です、知らない人が見れば。そこでもうダメだと思った、何回も何回も。私は頭の中でああ死んだな、これで終わりや、ああでも気持ちいい〜っていう感じですよ、別世界に入っちゃう。それでなんか目が覚めるんですよ、でまた復活する。その繰り返しの繰り返しの繰り返して、やっと終わったら時計見たら1時間経ってるんですよ。1時間のかかり稽古って事って普通有り得ない事なんです。

変なこと、変だって思わないで下さい、それで私剣道にはまっちゃったんです。超マゾっていうか、マゾヒストっていうか(笑)。逆にそれが自分の限界ですね、肉体的な限界、精神的な限界というのが誰にもあるんですけど、完全にそれを超えてしまった。

その1回だけの稽古終わってからですね、一気に怖いものなくなりました。何やっても全然平気だっというそういう気持ち。これは面白いっていう。で先生は、それが見方によってはただの暴力なのか見事な指導？、私はやっぱり素晴らしい指導者に恵まれたなと思って。私の一番の弱点教えてくれて、それでその自分の弱点をどうやって乗り越えるかっていう、それを教えてくれたっていう事を。その時は剣道はスポーツじゃなくて、本当にああこれは剣の道だなと、たったの17歳でそれに気づいたっていうのが、私の人生にとっては劇的な、別に何か求めている訳でもなくそうなった訳ですよ。

クライストチャーチで「武士道」の語を知る

だからそれでああこの剣の道って面白い、ニュージーランドに帰っても、もっと剣道やりたい。最初は開放されたって気分だったんですけども、やっぱり落ち着かないんですよ。棒あればすぐ傘でも持っただけです。

クライストチャーチは道場が無いです。じゃあクラブをつくろうと。それで武道具屋さんがあるんですけども、柔道の人やってるお店なんですよ。

に行ったら剣道初段持ってるんですけど、クラブ無いかって、いや無いんだけど剣道やりたい人一杯はいるよ全部電話番号書いてるから電話してみ、って言われたんです。まああの人は商業目的だったと思うんですよ、剣道クラブが出来たら防具売れるっていう事だと思うんだけど。それで何人か電話して、じゃあやりましょうって言って、最初は3人だったんです。1ヶ月経たない内に30人も見学に来てるんです。

多くの見学者は他の武道やってるんですよ、空手とか柔道とか。けれども物足りないと言います。武道精神、武士道勉強したいとか言う訳ですよみんな。なにそれ？って思ったんです。全然その武士道っていう言葉も知らなかったんです。それでみんなそれを求めて来る、自分より大分年上の人ばかりだから、それを求めて来るから、ああそうかあ〜どうしようって、それでいろいろ勉強するんですよ。

新渡戸の本、それを読んでもあまり判らなかつた。あと吉川英治の宮本武蔵っていう小説がね、一番勉強になったのはそれです。それを読んでああ修行やっぱりしないとあかん、武者修行。それでまた日本に来た訳ですよ。中々それからニュージーランドに帰れない。本当は日本に来ていっぱいそういう事学んでニュージーランドに帰って道場の人達に伝えようっていう、その目的で最初来たんですけども、それが20年経ってるんですよ。自分の修行まだまだっていう事。

そういう意味で本当にこの一旦暴力的な非常に激しい修行のお陰で私の人生が大きく変わった。そう、その当時の私です。(女性の写真を持っている写真が映る)いや、彼女だって言いたいところなんですけれども、そうじゃなくてその当時流行っていたアイドルですね、南野陽子です(笑)。すごい好きだった。それが救いだったんですよ毎日の。実は会ったんですよ「アッコにおまかせ」っていう、今やってるんですかね？やっていますか？留学生スピーチ大会みたいなのがあって私はそれに出たんですよ。でたまたま南野陽子が同じ番組に出てまして、私はファンだという事を判って、私胴着袴でいたんですけども、防具はTBSが貸してくれたんですよ。で胴にサインしてくれたんですよ、カメラの前でね。それをくれるかと思ったら、いや返して下さいって言われた(笑)。一応スケバン刑事のヨーヨー貰いましたけど。

武道とスポーツの違い、勝負の品格

最後にですね、ご免なさいちょっとだけ超過しますが、もっといろいろ話したかったんですけどね、武道とスポーツの違いについて簡単に、これはこの本の一つの中心テーマであります。

スポーツでは、この青い線をルールとして考えて下さい。どんな競技でもルールがありますよね。ルールが無ければ試合出来ない訳なんで。多くの競技ではですね、このルール枠内でやるんですけども、出来るだけギリギリの所でプレイをするというのが一番エキサイティングですよ。ちょっとこのギリギリの所、反則になるかならないかっていう所でプレイするのが、それが非常にレベルの高いスポーツ選手だと言われるんですよ。で場合によってははみ出てしまうって事になると反則です。審判が見てなかったらラッキーって事になってしまいますよね、こういうプレイが一般的だと思うんです。特にプロスポーツがそうです。

けれども武道が理想としているのは、このギリギリの所でやるんじゃないで、本当に正々堂々とそれを戦う、勝負をするという事で、相手を騙す、騙して勝つ、誤魔化して勝つっていう、例えばフェイントをかけて勝つとかいう事はあんまり高く評価されないんです。勝利は勝利になるかも知れないんですけども、品の悪い勝利です。品の良い勝利っていうのが、正々堂々と自分が持っているものを全て出し切ってばーって行くんですよ。相手を騙さないで。本当にもう柔道の一本はそうですよね、剣道的一本もそうなんです。だから相手を騙して嫌らしい事をやってから勝つんじゃないで、それが品の良い勝利。品の悪い勝利は、下品な勝利っていうのが相手を騙して勝つという事です。勝ちも勝ちかも知れないけれどレベルが低い。それで品の良い負け、それで品の悪い負け、騙してそれで負けるって最悪。けれども品の良い負けは、品の悪い勝ちより上なんです、考え方としてはね。これは理想であって現実と理想は違う事が多いんですけれども、そういうのを目指してる訳なんです。そういう所がちょっと違う価値観。

残心とは武士道の心なり

もうひとつですね、これが私の非常にはまっているキーワードの一つです。これこそ、これが武士道じゃないかと私は思うんですよ。武道やってない人には中々多分見たこと無い言葉だと思うんですけど「残心」と言います。残心はどの武道にもあります、剣道でも柔道でも空手でも。この残心って空手

だったら相手を倒してかーっと(構えのポーズ)やるじゃないですか、これもまた行くぞっていう準備ですね、それが残心。

剣道でいう残心はこういう風に定義されているんですけども、「打突した後に油断せず、相手のどんな反撃にも直ちに対応出来るような身構えと気構え。剣道試合審判規則及び細則では残心がある事が有効打突と言って一本ですね、「(残心が)有効打突の条件になってる」という事ですね。つまり面打ちました、面打ったってまあそれがきれいに決まればそれが一本だと思うでしょう、でもそうじゃないんです。打ってからどうするかって事を審判が見てる訳です。それで残心を示していればそれでじゃあ一本として認めましょう、っていう事になっちゃうんですよ。

どういう事か短いビデオをちょっと見ていただければ判ると思います。それで終わりにします。まずはオリンピック柔道見ましょうか。これ2000年のシドニーオリンピック。井上康生が一本取りました、優勝です。これはまあ見事なガッツポーズですね。(嫌い?の声)そうですガッツポーズ嫌いです私(笑)。っていうのはこれは残心が無い訳です。一本取った瞬間それで勝負有りって事になっちゃうんですよ。だからその時点で相手に対する礼儀を尽くしてないんですよ。俺が勝ったぞーヨッシャーって自分の、まあ嬉しいに決まってるんですよ。オリンピックの金メダルだ、それは嬉しいですよ。けれどもそれしか頭に無い訳です。勝負が決まった瞬間です。

じゃ剣道はどうなのかという事を見て頂きましょう。剣道、オリンピックは無いんですけども、これが全日本選手権大会の決勝戦です。これ二人の剣士は警察ですね、警視庁です。内村、明治大学出身で、原田、筑波大学出身で、二人ともね2位とか3位は何回かあったんですけども、これ優勝するの初優勝になるんですよ。これをちょっと見て頂きたいんですけども、これは次一本取る人が優勝するんですよ、初優勝という事でまあ大変な試合ですね。はい、白の小手が入りました。多分見えてないと思うんでスローモーション、右側の人を見て下さい。はい、小手入りました。でこの人負けたんですよ。これ見て下さいね、はい参りましたと言ってるんですよ。こっちの人も打ってそれで離れて、来るか、来るか、という残心を示している訳です。

どっちが勝ったか判ります？判らないですね今。「くああー」っていうのが無いでしょう？「ああくそー」っていうのが無いですね。もう嬉しいに決まってるんですよ、悔しいに決まってるんですよ。でも絶対その感情を出さない。ディーン・バーカー、スキッパーみたいなストイックですよ。それが残心っていうんですね。

剣道は、例えば残心が無い場合はどうなるかっていう事です。これですね高校生の大会になるんですよ。団体戦、5人5人です。どちらも2勝2敗なんですよ。だから5人目って大将です、大将戦なんですよ。大将が勝ったらチームがインターハイに行ける大事なブロック試合ですよ。でこの高校生がどうするかっていう事ですね、大将戦になって。はい、取りました小手打たれたけど取り返した訳ですね、だから1、1になってます。1、1になってるからそれで開始線に戻って自分のチームメイトに向かって何かをしました。それを審判が気付いて合議をします。今あいつがガッツポーズしたぜ、どうする？はい取り消し、という事に。見ましたか？ほとんど見えないでしょう？...これですね、で取り消し、だーめ、お前は残心が無いという事です。お前は相手に対して失礼だよと、しかも自分の気持ちコントロール出来てないっていう事になっちゃうんです。それでルール上では残心がなければならぬってさっきありましたね、それで取り消しになっちゃうんですね。

武道の競技化を憂う

これをもう1回見ましょう。(柔道の動画を再生)同じ武道っていてもやはりオリンピック種目になったっていう事で、そういう武道的な価値観っていうものがどっか消えてしまってるように思います。これは競技です、武道ではない訳です、という事なんです。こういう事言うと柔道をやってる人達はすごい怒るんですけどね(笑)。でも証拠そこやないかっていう事言えると思います。

とにかく武道にこういう教え、こういう考え方、こういう価値観っていうものがまだあるんですね。それが少しずつ消えてしまっているんじゃないか。柔道がいい例です、剣道もそうです。例えば気付いたかどうか分かりませんが、さっき取り消しになりましたよね。それで相手チームが「うわあー(拍手)」となっているんですよ。それも失礼な話しですよ。そうなんですよ、それもいけないんですよ本当はね。だからそう

いう事をやっぱり忘れてはいけないんじゃないかと思います。

あとは剣道でも学生指導しているんですけど、学生もね結構そこそギリギリの線で勝負をするんですよ。面打ちました、ヤアアアーってやるんだけど、本当に残心を示しているのか、竹刀を握ったガッツポーズしているのかという事が非常に微妙というか、まあ明らかにねガッツポーズなんですよ。だから剣道の人は偉そうに言えないんですけども。しかし取り敢えずルールではそういう事やっちゃいけないっていう事になってる事。あとは1人1人の理解ですね。ぜひ私の本読んで欲しいところなんですよ、学生も(笑)。

21世紀の武士道とは

そういう事があってですね、例えば残心っていうのはそれは道場とか試合だけじゃ無しに、それが道場の外でも日常生活に役に立つような概念なんですよ。例えば道を渡る時に、見て、見て、もう1回見る、それが残心です。財布とか傘とかねどっか忘れてたりすると、それが残心が無いって事になる。自分が悪いんですよ。常に油断しないで、何があっても対応出来るようなそういう気持ちを保つ、それが残心ですよ。だからそういう事を私がまあ最近になって武道、剣道の修行を通じてそういうところがまあちょっと身に付いてる。まだ完全ではないですよ勿論。けれども今何かあった時は、ああ今残心が無かったなとか言える。それでどうやって改善していくか、直していくかっていう事を武道から剣道から一杯一杯その人生教訓があって、よりいい生活出来る為のヒントを一杯与えてくれるという素晴らしいものだと思います。それこそが今の21世紀の武士道、まず意味はそこにあるんじゃないかと思うんですね。そういう意味でやっぱり武士道っていうんだったら、じゃあ何かやってるかっていう事になっちゃうんですね。やってるだけでは判らないですね、ちゃんと考えながらやらないと。勉強しながら、それこそ文武両道です。という事で武士道というものが理解出来るんじゃないかなと、私はそのように考えてます。

ご免なさい、ちょっと時間超過してしまいましたけれどこれで、ご清聴ありがとうございました。(拍手)

